

矢印は、前週の数に対して ↑増加 ↓減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 33	60	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↑ 1	0	ヘルパンギーナ	↑ 178	135
咽頭結膜熱	↓ 26	29	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 39	32
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↓ 74	102	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 289	411	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 20	16
水痘	↑ 48	43	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 9	17	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 2	2	マイコプラズマ肺炎	→ 2	2
突発性発しん	↑ 52	44	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 289件(前週報告 411件)と減少。地区別では菊池、人吉、有明からの報告が多い。年齢別では1歳の43件を最多に、幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは報告数 178件(前週報告数 135件)と増加。地区別では人吉、菊池、天草に多くみられる。年齢別では1歳の71件を最多に、8歳以下からの報告である。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 74件(前週報告数 102件)と減少。地区別では宇城、人吉、天草からの報告が多い。年齢別では、4歳の13件を最多に、幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	10	1	18	35	86	20	1	1	20		29	6		18				1
山鹿保健所				2	15			1	2		3		*	*				
菊池保健所			4	1	54	9	2		9		42	4		1				
阿蘇保健所					5								*	*				
御船保健所					2								*	*				
八代保健所	13		1		20	6	1		4		9							
水俣保健所	1		1		2		1		5			1	*	*				
人吉保健所				8	25		1		2		48	1	*	*				
有明保健所	1			6	43	8	1	1	7		18	2						1
宇城保健所			1	13	20	3					5	7						
天草保健所	8		1	9	17	2	1		3		24	18		1				
計	33	1	26	74	289	48	9	2	52	0	178	39	0	20	0	0	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	33			1	2	3	3	2	2	5	2	3	6		2	1	1				
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	1			1																	
咽頭結膜熱	26	2	1	7	4	3	2	3	1	1	2										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	74			4	6	9	13	7	9	7	2	6	7		4						
感染性胃腸炎	289	3	23	43	27	24	35	27	21	21	13	12	21	5	14						
水痘	48	1	4	10	10	7	7	4	2			1	2								
手足口病	9	3	2	2					1	1											
伝染性紅斑	2				1				1												
突発性発しん	52	3	19	27	2	1															
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	178		13	71	31	26	15	13	5	2	2										
流行性耳下腺炎	39			2	9	1	6	2	4	8	1	2	3		1						
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	20			1	1	1						1	1	1	3	2	3	2	4		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	2		2																		
クラミジア肺炎	0																				

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

- 流行性耳下腺炎：宇城、天草
- ヘルパンギーナ：菊池、人吉

ポツリヌス症の発生報告がありました。

今週、八代地域で、7歳の男性がポツリヌス症を発生したと報告がありました。ポツリヌス症はポツリヌス菌によって起こる感染症です。年間の発生数は全国でも0~6件程度と、多くはありませんが、重症化すれば死亡する場合もあります。昭和59年には、真空パックの辛子レンコンによる食中毒で36人が発生しそのうち11人が亡くなっています。

《症状》
神経や筋肉に麻痺を引き起こします。全身の違和感、物が二重に見える、眼が垂れ下がる、物が飲み込みにくい、筋力低下、呼吸困難などの症状が見られます。

《感染経路》
ポツリヌス菌は、土壌、河川、海洋に広く存在し、酸素の少ない環境になると、菌が増殖して毒素を産生します。毒素を持った食品を食べたり、傷口で菌が増殖することで発生します。乳児の場合ハチミツを食べることで感染することがあります。

《予防》
原因となるポツリヌス菌は低酸素の状態が増える細菌です。予防のためには各家庭において次のことに留意しましょう。

- ・新鮮な原材料を用い、洗浄を十分に行う
- ・製造時の十分な加熱(120℃、4分以上)
- ・自家製の缶詰・瓶詰を作る際には特に注意する
- ・加熱後の急冷、低温保存
- ・容器が膨張している缶詰や真空パック食品は食べない
- ・1歳未満の乳児にハチミツを与えない